

学生の声

「ロシア・クルチャトフ研究所への研修」

エネルギー科学研究科 エネルギー基礎科学専攻 水内研究室 博士後期課程2年 向井清史

現在、私はヘリオトロンJプラズマの電子密度分布を計測することを目的としたマイクロ波AM反射計の開発を行っています。この度、反射計計測や構成部品の作製に関する技術指導を受けること等を目的として、今年の3月に約2週間、モスクワにあるクルチャトフ研究所のVladimir Zhuravlev博士のもとを訪問致しましたので、その際の体験談を紹介したいと思います。

まずは渡航前からです。当初、この研修は12月を予定していましたが、ところがある日、先生から「海外共同研究の担当者が突然解雇され招聘状が発行できない」との連絡があり、ビザの発行ができずに、極寒のモスクワ行きは延期となりました（もっとも3月でも川は凍っていましたが）。

新しい担当者が着任し、日程が3月に決定してからは順調に進んでいたのですが、シレメチェボ空港到着時にはロストバゲージに遭いました。自作の一見怪しげな部品を持ち込んでいたため、何か問題になったのではないかと暗い空港の中で冷や汗をかきましたが、ヘルシンキでの乗り継ぎの際の積み込みミスが原因だったようで、翌日には無事手元に届きました。

他にも夜のモスクワで道に迷う等、様々なトラブルに驚きや戸惑いの連続でしたが、最も衝撃的だったのは研究のスタイルでした。初めに研究所を訪れ装置の見学をした後、「もうここに来てもすることはない、部品等は私の家にあるから明日からは私の家に来なさい」と言われました。それからは、先生の部屋でペットの猫に囲まれながら部品の半田付けをする、という貴重な経験をさせて頂きました。

先生に熱心に指導して頂いたお陰で、今回の研修の目的は全て達成することができました。モスクワは1000万人を超える人口を持つだけあって多くの人種が住んでおり、東洋人に対する視線等を感じることは全くなく、“最大の犯罪者グループ”、“ごみ”と現地で呼ばれている悪徳警官の被害に遭うこともありませんでした。休日には“ねぎ坊主”の形で有名な寺院を訪れたり、クラシックのコンサートでロシア臭ただようモーツァルトに触れたりすることもでき、公私ともに充実した生活を送ることができました。この研修で得た知識や経験、そして度胸を糧に、今後の研究に励んで参りたいと思います。

本研修で大変お世話になりました Zhuravlev 博士が去る7月に急逝されました。この場を借りてお悔やみ申し上げます。

「第一線で活躍するために」

情報学研究科 通信情報システム専攻 小野寺研究室 博士後期課程2年 久保木 猛

私はCMOSによる高性能回路の設計に関する研究を行っております。このテーマは学部4年生から取り組んでおり、これまでこの研究を続けられたことに今更ながら感謝しております。CMOS回路、特に私の研究で取り組んでいるようなアナログ回路の設計では、設計が困難になりつつあり、大学だけでなく企業においても需要の高い研究分野です。

さて、すでに博士課程の進学から1年が過ぎてしまいましたが、修士課程在籍時には積極的に就職活動を行っており、進学はあまり考えていませんでした。ある会社の見学の時に魅力的な研究を紹介されて良い印象を持ちましたし、実際に、就職先を数社に絞っていました。しかし、進学という選択肢を考えたのもその会社見学でした。見学時に会社の技術面での説明をされていた人が、みな博士の学位を取得している人だったのです。そのとき「ああ、第一線で活躍する人は博士を持っているんだなあ」と考え始めました。また別の会社では当研究室の学生全員が就職希望と聞いて、「誰か博士行かないのか？」とリクルータの方がおっしゃっていました。第一線で活躍する技術者の生の声を聞いた後で、私の中で進学という選択肢が魅力的に思えてきました。すでに4月に入っていましたが私はまだ就職か進学かを悩んでいました。

結局、学校推薦を受けるかどうかの面接の日に進学を決めました。それから1年。進学という選択は私にとって良い選択、少なくとも就職と同程度には良い選択だったと満足しています。もちろん就職も良い選択でした。今こうして研究を進めてみると、なかなか思ったように進まないこともありますが、それでも主体的に研究を進められる環境のすばらしさに、今更になって気付くようになりました。それと同時に4月に入っていたぎりぎりのところまで悩んで考えてよかったとも思えてきました。世の中はあっという間に不景気になってしまいましたが、現在もこうして社会的にも学術的にも意義の大きい研究を進められていることは幸運であり、感謝しております。今の環境に感謝しながら、今後も学位取得に向けて頑張っけてゆきたいと思ひます。